

PFOS及びPFOAの水質検査について

PFOS（ペルフルオロオクタンスルホン酸）及びPFOA（ペルフルオロオクタン酸）は、有機フッ素化合物の一種です。PFOS・PFOAは、環境中で分解され難く、また高い蓄積性があることから、国内外において製造、使用等が規制されています。

現在では、水質管理目標設定項目（※1）及び要監視項目（※2）に設定されています。

弊社では、PFOS・PFOAの水質検査（※3）を受託しております。

（※1）水道法の水質管理目標設定項目（厚生労働省）

（※2）「水質汚濁に係る人の健康の保護に関する環境基準等の施行等について」（環境省）

（※3）水道水・水道原水、河川水・地下水等の環境水のみを受託

PFOS	アメリカで開発された界面活性剤。耐熱性・耐薬品性等に優れた安定性があり、表面張力を大きく低下させることから、撥水剤や紙・布の防汚剤原料、泡消火剤成分等 幅広く使用されてきた。
PFOA	PFOSと同様の性質。フライパンのテフロン加工や食品包装紙の撥水加工の際の原料等 幅広く利用されてきた。

有機フッ素化合物PFAS 健康への影響を環境省が議論

（日本経済新聞 2023年2月1日掲載）



環境省は有害性が指摘されている有機フッ素化合物「PFAS」について、1月に2つの有識者会合を立ち上げ、健康への影響評価や水道水への混入度合いなどの議論を始めた。各地で検出されていることから、西村明宏環境相は31日の記者会見で「国民の安心安全の取り組みを進めたい」と述べた。

PFASは4730種を超える有機フッ素化合物の総称。自然界で分解しにくく水などに蓄積することがわかり、人への毒性も指摘されており、国際条約で廃絶や使用制限している。

PFASのうち「PFOS」と「PFOA」は水や油をはじき、熱に対し安定的な特性があり、消火剤やフライパンのコーティング剤などに使われてきた。国内でも2021年までに法令で製造と輸入を原則禁止した。

21年度に実施した河川や地下水の調査では、31都道府県のうち13都府県81地点で暫定的な目標値を上回る高い濃度が検出された。PFOSやPFOAが混ざる水を飲まないよう自治体が井戸の所有者に指導や助言をしている。

人への毒性が問題になる量は研究途上で、国際的に結論が出ていない。環境省と厚生労働省はPFOSとPFOAを要監視項目などに位置づけて、水道水に含まれる濃度について留意すべき暫定目標値を設定しているが、現時点で必ず満たす必要のある水質基準にはなっていない。

東京都多摩地域では市民団体が専門家と協力し、住民の血中濃度などを独自に調査している。西村環境相は「血中濃度と健康影響の関係を評価する科学的知見は十分でない」と述べ、知見の収集が重要だと強調した。

検査内容、お見積りなど、お気軽に営業部までお問い合わせ下さい。



TOHO Biological
Laboratories
Co., Ltd.

株式会社 東邦微生物病研究所

〒556-0001 大阪府大阪市浪速区下寺3-11-14

TEL：06-6648-7157 FAX：06-6636-9266

【営業時間】9：00～17：00（土曜・日曜・祝日除く）

東邦微生物

検索

<https://www.toholab.co.jp>

E-mail: toholab@toholab.co.jp

